

第3章 初動対応

3.1 初動対応の概要

日田市では、7月5日（水）の午前11時04分の大雨警報の発表を受けて、防災・危機管理室内に日田市災害警戒準備室を設置し、情報収集を開始した。

その後の、気象情報発表の概要、本市の災害対策配備体制の推移及び避難関連情報発表の概要は、以下のとおりである。

表-3.1.1 気象情報、配備体制、避難関連情報発表概要の推移

月日	時間	内容
7月5日	11:04	大雨警報発表（日田市災害警戒準備室設置）
	13:31	洪水警報発表
	13:45	土砂災害警戒情報発表
	13:52	避難準備・高齢者等避難開始（大鶴・小野地区） 発令
	14:15	日田市災害警戒室設置
	15:15	避難勧告（鈴連町・殿町・鶴城町・鶴河内町・上宮町） 発令
	15:15	日田市災害対策本部設置
	15:50	避難勧告（大鶴・小野・三花・夜明・光岡・桂林・咸宜地区） 発令
	17:40	避難勧告（東有田・西有田地区） 発令
	17:55	避難準備・高齢者等避難開始（上記以外の市内一斉）
	18:45	避難指示（大鶴・小野・夜明・三花・光岡・桂林・咸宜・東有田・西有田地区） 発令
	19:00	市長からのお知らせ
	19:55	大雨特別警報発表
	21:00	市長からのお知らせ
	21:10	避難勧告（天瀬町赤岩湯・古湯・築ヶ瀬・天ヶ瀬地区） 発令
	22:38	避難指示（18:45分の避難指示の内容を再度放送）
23:00	避難指示（清水町住吉地区へ避難指示の内容を再度放送）	
7月6日	06:07	避難勧告（上津江町・中津江村・前津江町・大山町・天瀬町） 発令
	06:56	自衛隊小野公民館到着

本章では、まず、災害の時系列の災害対策本部等の動きを、市長へのインタビュー資料に基づいて記す。この時系列に沿った対応では、災害対策本部の動きの概要が分かるとともに、会議の内容をマスコミへ公開したことなど、日田市としての特徴のある取組内容が分かる。

次に、市民の安全確保上の最も重要となる動きである「避難勧告等の発令の推移詳細」を記す。

さらに、災害対策本部会議の様子を紹介するとともに、より初動対応の内容が伝わるように災害対策本部会議の開催経緯とそこでの主要な議事内容の一部を紹介する。

また、初動時の現場での動きの中心となる「救助・捜索活動」について、「消防、自衛隊、警察等」の動きを記す。

最後に、救助・捜索活動に加えて、被災者・避難者への緊急対応については、国、大分県、大分県内市町村他から多大な支援を頂いたが、この点についても簡単ではあるが紹介する。

なお、避難者・被災者への支援内容については第4章で記載している。また、初動時の市民の動きについては、教訓等に関する聞き取り調査結果と合わせて、一部ではあるが、第6章に記載している。

3.2 災害対策本部等の動き

(1) 災害の時系列と災害対策本部等の動き

災害の時系列と災害対策本部等の動きを、前記した「災害対策本部設置と避難勧告の意思決定の概要」と重複する部分もあるが、「消防庁：平成29年度の災害を中心とした事例集、平成30年4月」³⁾を引用しながら以下に示す。以下の内容は、消防庁が市長へインタビューを行い、作成されたものである。

1) 7月5日(水)

朝 3日間の夏季休暇にあたっていたが、春先から「今年の気候は（前の九州北部豪雨のあった）平成24年と似ているね」という話があったので、気になって自宅にいた。

（前の九州北部豪雨とは、平成24年7月九州北部豪雨：市内の花月川や有田川が氾濫。日田市の被害は、死者1人、全半壊住家430件、浸水住家281件など、激甚災害指定を受けた。以下、この項では、「24災」と表記する。）

11:04 「大雨警報」発表 災害警戒準備室（第3号）設置

午前11時に大雨警報が出た。毎朝気象情報は見るようにしているが、気象庁ホームページで気象庁の雨雲のレーダー画像を見て、嫌な予感がした。

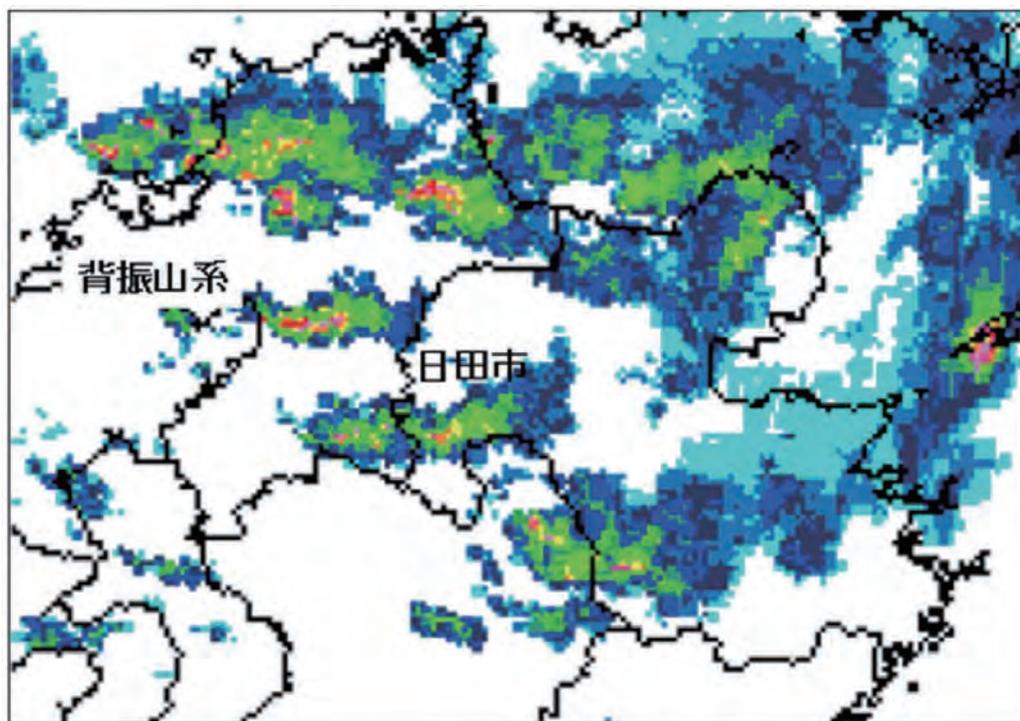


図-3.2.1 7月5日12時の日田市付近の気象レーダー画像
(気象庁資料より抜粋・加筆)

13:00 どうしても気になり、市役所に登庁。24災を経験していたからかもしれない。

13:31 「洪水警報」発表 災害警戒準備室（第4号）設置

昼過ぎから夕方にかけて一気に雨は強まった。気象庁の雨量データを見ながら、防災体制を順次立ち上げていった。

13:45 「土砂災害警戒情報」発表

13:52 避難準備・高齢者等避難開始 発令（小野・大鶴地区 878世帯・2,322人）

日田市中心部の雨はそれほどではなかったが、大鶴地区の自治会長から、「日ごろの雨の降り方と違う。異常だ。避難所を開けてほしい。」と防災・危機管理室に電話が入る。市の職員の85%くらいが24災の対応を経験しているので、この時点で「スイッチ」が入っていた。市のマニュアルには避難勧告・避難指示の基準（雨量・河川水位など）が明記されていたが、雨の降り方やレーダーの状況を見て、基準に達する前に出していった。「オオカミ少年」と言われてもいいので、先にやらないといけない。後悔は先に立たない。

14：15 災害警戒室を設置

24 災の経験から、災害警戒室を設置した段階で防災担当部署（防災・危機管理室）は外部から代表番号にかかってくる電話は取らず、「電話対応班」が受けることにしていた。電話対応班は災害対策本部とは別室にあり、部屋のジャックに電話機をつなぐだけで、市の代表番号への通話をすべて受けられる。防災・危機管理室には、直通番号を知っている自治会長や防災関係機関など関係者からの電話のみつながるようにしていた。どの地区で被害が出ているかを大まかに把握するため、通報メモに基づいて被害情報を地図上に整理した。この地図を専門に担当する職員を置き、情報に基づいてシールを貼っていった。

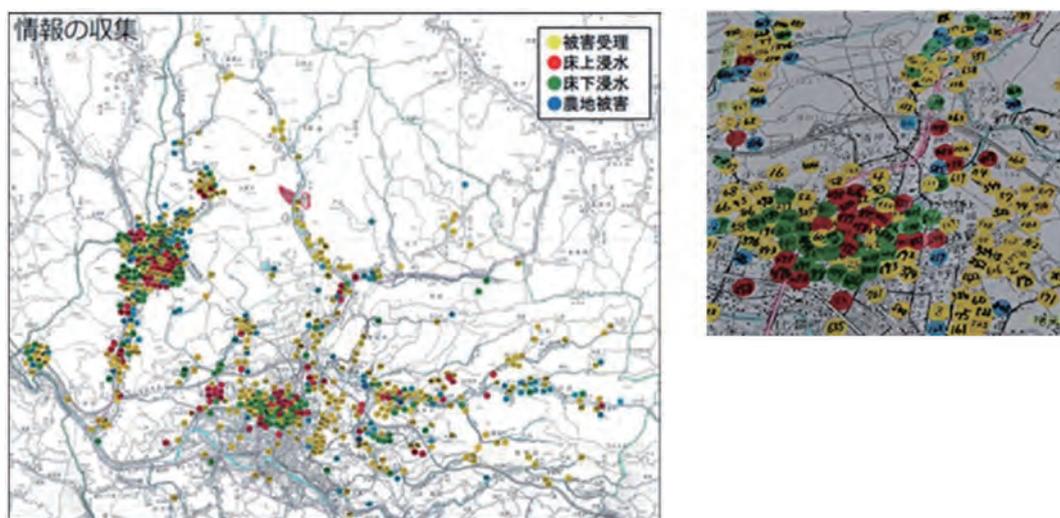


図-3.2.2 住民からの情報を集約した地図（通報の内容をシールで色分けした）

14：20 上宮山の観測点の累積雨量 100 ミリになる

15：08 記録的短時間大雨情報発表（日田市中津江付近 約 110 ミリ）

15：15 災害対策本部設置 第1回本部会議を開催

避難勧告 発令（鈴連町・殿町・鶴城町・鶴河内町・上宮町 168 世帯 442 人）

外は大変な雨になっていた。住民からの通報もかなり入り始めた。24 災のときも、西にある背振山系から「線状降水帯」が進んできて大雨を降らせた。同じようになったら大変だと思い、ずっとレーダー画像で雨雲の状況を注視していたら、はっきりとした「線状降水帯」の形になってきた。単なる雨雲ではなく、大雨を降らせる「線状降水帯」になると思った。避難勧告を出した地域は、24 災でも被害が出た地域。上宮山の観測雨量や大分県の土砂災害危険度情報などに基づいて判断した。

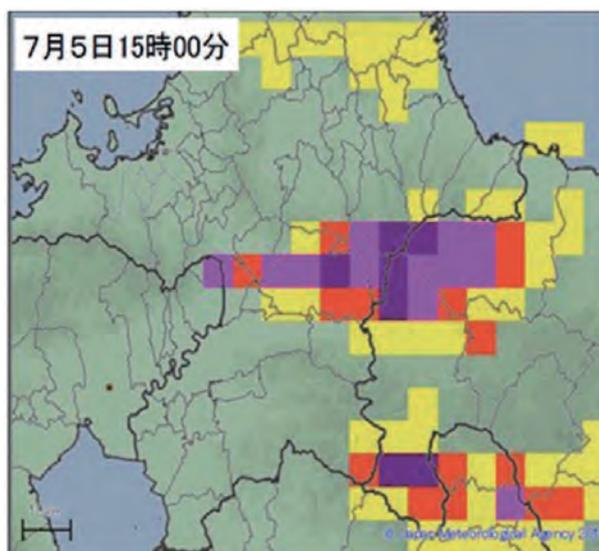


図-3.2.3 日田市付近の5 日午後3 時の土砂災害危険度メッシュ情報
(気象庁資料に加筆)

15：30頃 大肥川が決壊

15：40 市民から電話で被害情報が入り始める

15：50 避難勧告 発令

(大鶴・小野・三花・夜明・光岡・桂林・^{かんざ}咸宜地区 10,974 世帯 35,354 人)

川の下流にあたる地域だが、いずれ2～3時間後には水が出てくるだろうと考えた。こうした判断をする際に、24 災の経験は抜群に効いている。このころが雨のピークだった。気象庁の雨量データは市街地で観測されたものだが、上宮山などの雨量はそれの倍以上だった。小野地区や大鶴地区の振興センターからも川の状況に関する情報が入ってきていた。強い雨雲を示す赤いレーダーエコーがいつまでも消えず、さらに強い紫色も出ていた。この雨が2～3時間で終わればいいが、長く続くと大変だと思った。24 年とは違って避難も非常にスムーズで、早め早めに移動してくれたと思うが、中にはなかなか動いてくださらない方もいた。最終的には100人以上がヘリコプターで搬送された。

17：40 避難勧告 発令 (東有田・西有田地区 1,677 世帯 4,679 人)

24 災の経験から、浸水が想定される地域に避難勧告を出した。避難勧告を出して、振り返ったら自衛隊の人が自分の後ろに立っているのに気づいたときは、涙が出るほどうれしかった。陸上自衛隊玖珠駐屯地（大分県玖珠町）では、日田市が避難勧告を出した時点で出動することになっていたという。先遣隊が夕方には来ていた。24 年に比べて、非常に早かった。

- 17：55 市内全域に避難準備・高齢者等避難開始 発令（避難勧告対象地域を除く）
この時点では、とにかく避難している市民の安否確認を最優先にした。このとき非常にきつかったのは、小野地区や大鶴地区では、土砂崩れで停電し電話も通じず、携帯電話の基地局もダウンしたこと。これでしばらく安否が確認できなかった。その日の夜中に自衛隊が水を背負って入っていただき、無線で安否が確認できた。安否確認ができないのは対策上大変厳しい。安否が確認できないこの段階が一番不安だった。発災時の情報伝達やレスポンスをどうするかは、中山間地では大きな課題だ。
- 18：18 「記録的短時間大雨情報」発表（日田市日田付近 約 110 ミリ）
- 18：45 避難指示 発令
（大鶴・小野・三花・夜明・光岡・桂林・咸宜、東有田、西有田地区）
本当はもう少し早く避難指示を出したかったが、避難所を開設したくても、すでに開けられない場所もあった。道路が冠水して、指定避難場所や自主避難所にも行けない状況になったのは想定外だった。大鶴地区で亡くなられたお二人の方は、避難場所へ移動している途中で川に落ちたとみられている。「外に出るのが危険な状態では、その場から無理に動かない（垂直避難）」ということは、以前から呼びかけていたのだが…。
しかし、今回の災害は24年の倍くらいの速さで事態が急変し災害が拡大した。避難勧告・避難指示を出して各自治会長や防災士の方が無線などで呼びかけたが、それでも全然動かなくて、自治会長が「私もこの放送を最後にします。私も逃げます。」と言って初めて避難した人があるくらいだった（詳細は「※自治会長からの呼びかけ」参照）。
- 19：00頃 市長記者会見で避難を呼びかけ
ケーブルテレビとHitaTube(YouTubeの日田市公式動画チャンネル)で生中継
5日の夜から、市長記者会見と災害対策本部会議をケーブルテレビやYouTubeで生中継した。見てどうなるわけでもないと思うが、「動いている」姿を届けて安心してもらえらるなら、と考えた。このとき、一番情報が届かなければならない被災地には、ケーブルの断線で届かなかったのだが…



写真-3.2.1 災害対策本部から生中継で避難を呼びかける原田市長
(日田市公式動画チャンネル HitaTube より)

19:25 日没

夜になってからが大変で、現場の様子がよくわからない。水や食料がない。雨も続いていて雲も低いのでヘリコプターも飛べない状況だった。

19:55 「大雨特別警報」発表

特別警報は出たが、すでに現場対応で大変なのでそれどころではなかった。「大雨警報」と「大雨特別警報」の違いを考える暇もない状況。とにかく「出すものは出す」「動かさないものは動かさないようにする」しかなかった。

21:10 避難勧告 発令 (天瀬町赤岩湯・古湯・^{やながせ}薬ヶ瀬・天ヶ瀬地区 130 世帯 295 世帯)

22:38 避難指示 発令 (18:45) を再放送

23:00 避難指示 発令 (清水町住吉地区再放送)

市役所に泊り込み。5日間はほとんど自宅に戻らなかった。とにかく対応と情報収集に追われ、夜を明かしたという感覚すらなかった。

2) 7月6日(木)

6:05 避難勧告 発令

(上津江町、中津江村、前津江町、大山町、天瀬町 3,963 世帯 9,934 人)

9:51頃 小野地区の土砂災害の情報が入る

「山が落ちた」というのと「人が巻き込まれた」という情報がほぼ同時に入ってきた。30万トンもの土砂が落ちた。すぐに状況確認をした。

3人が巻き込まれていることや、川が塞ぎ止められていること、救助に入れないことなど、1時間くらい状況確認をしていた。消防署と自衛隊で連携して対応してもらった。

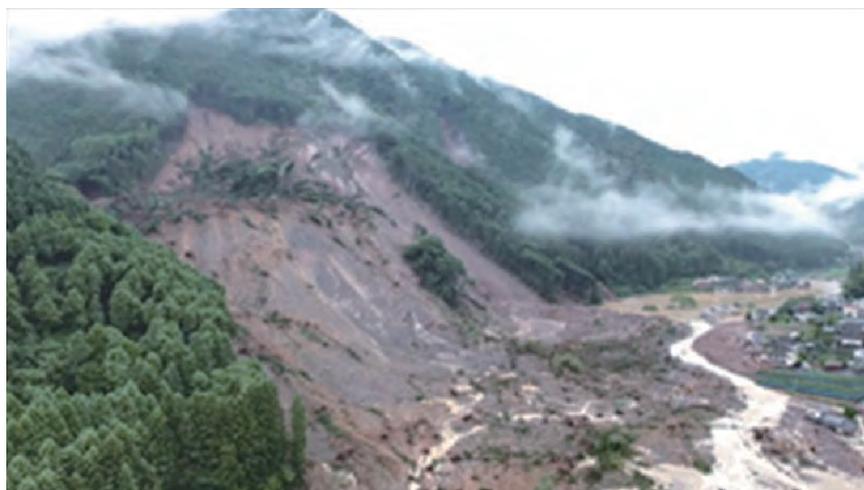


写真-3.2.2 小野地区の土砂災害の現場

14:10 「大雨警報」に切り替え

多くの避難者や孤立している人がいる状況。孤立している地域には、7日から職員が名簿を持って自衛隊のヘリコプターで入り、安否を確認した。最終的に全員の安否が確認できたのは発災から3日後の8日だった。

救助対応や捜索活動は、消防・警察・自衛隊それぞれにエリアを分けて対応してもらった。それぞれの機関の技量にあった地域を担当してもらうことで情報共有や指揮がスムーズだったのではないかな。

気象庁の職員が初めて災害対策本部にリエゾン（災害対策現地情報連絡員）で入り、24時間いてくれたのはありがたかった。予報官が気象庁のホームページを災害対策本部内にある大型テレビに映しながら、気象の現状と今度の予測について詳しく説明してくれたので助かった。8月11日まで待機してくれた。直前に導入された気象庁の「洪水警報の危険度分布」は、活用するゆとりがなかったが、川の色が紫になったところは危ない。今回の災害のあとで「洪水警報の危険度分布」との実際の川の状況との整合性を検証したところ、ほとんどのところで一致していた。防災上役立つ情報だと思う。



図-3.2.4 日田市付近の5日20時の洪水警報の危険度分布
(気象庁資料より抜粋・加筆)

3) 7月8日(土)

全員の安否確認を完了 ボランティアセンター受付開始

「災害が原因で所在がわからず、かつ死亡の疑いがある人」を「行方不明者」とし、「連絡が取れない人」は「安否不明者」として公表していたが、100人を超える「安否不明者」数がメディアで大きく報じられ、混乱も起きた。

24 災のとき、流木などの災害廃棄物の処理で途方にくれた経験から、2017年4月に「災害廃棄物処理計画」を立てていた。木材を砕く「クラッシャー」という装置も買っていた。濡れた畳は、大分県津久見市の業者に処理を委託することにし、集積場所も決めていた。建設業協会とも協定を結び、廃棄物の運搬もお願いしていたが、回収や分別は非常に早かった。

4) 8月末

避難者がゼロに

災害の規模が24年より大きく、地域に住民が戻れるのかどうか、復旧にいつまでかかるかをまず考えた。出水期や台風の時期も控え、今後どうやって避難者を健康にケアしていくか。「仮設住宅」を建てるという判断はしなかった。「みなし仮設住宅」として、住宅を借りて、少しでも早く公民館などの避難所から出してあげたいと考えた。夏の暑い時期でもあり、集団生活にも慣れていない。この避難生活が長くなることが想定できたので、1日も早くストレスをなくしてあげたいと。半年たってみて、まあそれでよかったのかなと。保健師などがみなし仮設住宅にいる方を巡回してケアをしている。

5) 平成 30 年 1 月 31 日 (参考)

「日田市復旧・復興計画」を策定「次の災害に備える」ことを前提とした災害に強いまちづくりを掲げる

次の災害を想定したとき、「暮らしていいエリア」と「暮らせないエリア」がある。集団移転などを強制することはできないが、住民にはなるべく安全なところに暮らしてほしい。「原状復帰」の復興では、またやってくる災害を避けることはできない。自治体の力で激甚な災害を防ぐことは難しいが、住民が命を守るための情報を提供することはできる。情報を提供しますから、自分で対応できることは自分で備えを始めてくださいということ。今、新しい浸水マップを作成しているが、そういうデータを見て自分が住んでいる土地はどういう土地なのか、確認していただきたい。その上で、いざというときにはどうすればいいのかを考えておいてほしいと住民に訴えている。

【自治会長からの呼びかけ】

「この放送を最後に私も避難します」～自治会長の呼びかけで人的被害ゼロに～

日田市大鶴地区上宮町は今回の九州北部豪雨で集落の約7割の住宅などが全半壊したが、人的被害は免れた。

上宮町自治会長の藤井隆幸さんは、自宅の裏を流れる川にあった「岩」を避難判断の目印にしていた。祖父母から「あの岩が隠れたら大水が出るよ」と教わっていたという。今回、この岩が隠れ、近くの水田にも水が流れているのを見て危機感を感じ、日田市が避難指示を出す5時間以上前から「告知放送端末^(※)」を通じて集落の住民に避難の呼びかけを繰り返した。

最後の3回目の放送では「この放送を最後に町内の災害対策本部は大鶴公民館に移ります。私も避難します。豪雨が続いていて危険です。早めに避難してください。」と呼びかけた。この言葉で危機感を感じて避難した住民もいた。藤井さんは、平成24年7月九州北部豪雨で危機意識が芽生え、雨雲レーダーのチェックなどを行い、早めの対応を行うようにしていたという。

※告知放送端末：日田市が敷設した光ケーブルを利用した音声告知放送受信機。日田市が運営するケーブルテレビ（水郷TV）と契約している家庭等に設置されており、自治会長宅の電話から、暗証番号を入力すれば地区住民に一斉放送することができる。市役所の端末では、全ての地区の放送内容を聞くことができる仕組みになっている。

（「広報ひた」2017年12月1日号、「毎日新聞」2017年8月5日朝刊から引用）

(2) 避難勧告等の発令の推移詳細

これまで記したことと重複する部分も多いが、以下に、避難勧告等の発令情報の詳細な推移を、[気象情報に関する発表](#)や[災害対策本部等の体制の推移](#)と合わせて記す。

【日田市体制】

- ・7月5日 11:04 [大雨警報](#)（[災害警戒準備室設置・第3号](#)／[防災・危機管理室](#)）
- 13:31 [洪水警報](#)（[災害警戒準備室設置・第4号](#)／[総務課、防災・危機管理室](#)）
- 13:45 [土砂災害警戒情報](#)
- 13:52 大鶴・小野避難準備／高齢者等避難開始
小野地区 317 世帯 870 人
大鶴・小野公民館 避難所開設
大鶴地区 561 世帯 1,452 人
- 14:15 [災害警戒室設置](#)
- 15:08 [記録的短時間大雨情報](#)（[中津江](#)）
- 15:15 [災害対策本部設置](#)
避難勧告（[鈴連町・殿町・鶴城町・鶴河内町・上宮町](#)）
[鈴連町・殿町](#) 185 世帯 499 人、[鶴城町・鶴河内町・上宮町](#) 168 世帯 442 人
- 15:50 避難勧告（[大鶴・小野・三花・夜明・光岡・桂林・咸宜地区](#)）
10,974 世帯 35,354 人
大鶴・小野公民館、[三和小、戸山中、大明小中、光岡小、桂林小、咸宜小、](#)
日田林工 避難所開設
- 17:40 避難勧告発令（[東有田地区・西有田地区](#)）1,677 世帯 4,679 人
[東有田中、有田小](#) 避難所開設
- 17:55 日田市全域避難準備情報／高齢者等避難開始（避難勧告発令地域を除く）
[桂林小、咸宜小、日隈小、若宮小、三芳小、東部中、](#)
[日田林工、光岡小、高瀬小、朝日小、三和小、有田小、](#)
[東有田中、小野・大鶴・夜明公民館、石井小、戸山中、](#)
[大明小中、上津江体育館、中津江振興局、柚木多目的交流館、](#)
[出野交流センター、前津江小、赤石老人憩いの家、](#)
[曾家多目的交流館、天瀬公民館、丸山コミュニティセンター、](#)
[東溪中、天瀬公民館五馬分館、旧台小、](#)
[出口コミュニティセンター、旧鎌手小、旧都築小、](#)
[南部コミュニティセンター、大山文化センター](#) 避難所開設

- 18:45 避難指示 大鶴、小野、夜明、三花、光岡、桂林、咸宜、東有田、西有田地区
- 19:55 大雨特別警報
- 21:10 避難勧告 赤岩湯、古湯、築瀬、天ヶ瀬地区 130世帯 295名
- 22:38 避難指示 (18:45の避難指示を再放送)
- 23:00 避難指示 (清水町住吉地区に避難指示再放送)
- ・7月6日 06:05 避難勧告 上津江町、中津江村、前津江町、大山町、天瀬町 3,963世帯 9,934人
- 06:40 五馬中学校体育館 (避難所追加)
- 14:10 大雨特別警報解除→大雨警報
- ・7月7日 5:15 洪水警報発表
- ・7月8日 16:00 避難指示継続 小野・大鶴・夜明・東有田地区
避難勧告の継続 上津江町、中津江村、前津江町、大山町、天瀬町
避難勧告→避難準備・高齢者等避難開始へ変更 三花・光岡・西有田・咸宜・桂林地区
その他の地区の避難準備情報は解除
- ・7月9日 13:30 土砂災害警戒情報解除
- ・7月10日 4:48 大雨警報解除
- 10:00 三河町・鈴連町 (下小竹地区) 避難指示→避難勧告
鶴城町 (小鹿田・古田地区)、殿町・源栄町・鈴連町 (下小竹地区除く) 避難指示継続
その他の地区の避難指示・避難勧告・避難準備情報は解除

以後、台風や大雨の際は気象情報の提供や避難情報の発令を行っていたが、8月8日に災害対策本部から災害警戒室に、10月2日には災害情報収集室の体制に移行した。

なお、土砂崩れ被害が大きかった鈴連町椰野地区は、10月2日以降も避難準備・高齢者等避難開始を継続していたが、対策工事が進んだこと並びに九州北部地方の梅雨明けにより土砂災害の恐れが低くなったことから令和元年7月25日に避難情報を解除した。

(3) 対策本部会議の情報公開（テレビ中継とメディアへの公開）

以下、先に参考とした「消防庁：平成29年度の災害を中心とした事例集、平成30年4月」³⁾での市長のインタビュー記事を引用しながら、対策本部会議の情報公開について記す。

市長は、前年に大分県別府市が被災したときに、別府市長がケーブルテレビを通じてメッセージを発したことが市民の安心につながったと聞いていた。直前に災害対策本部となる会議室と、災害発生時に情報を整理する会議室の2箇所ケーブルテレビの中継用に端子を設置しており、カメラがあれば、すぐに中継ができるようになっていた。災害が起きた5日の夜から中継を始めた。最初は私（市長）の記者会見で「こういう状況です。危ないから早く逃げてください。」とメッセージを伝えた。市が「動いている」姿を届けて安心してもらえらるらと思っただが、市民の反応はとてもよかった。市民からの問い合わせの電話も減り、24 災のように対応に追われることもなかった。

状況が混乱している中のメディアの取材対応は大変だ。そこで災害対策本部会議をメディアにフルオープンにした。いちいち取材を受けなくても、この中（災害対策本部会議の中）でやっているのだから、「全部見てください」という形にした。また、メディア対応は「地方創生推進課シティセールス係」（6階）に一本化した。4階の災害対策本部のところにメディアの人が溜まり始めたら、6階のシティセールス係から4階に職員を2人貼り付けて「こちらに聞いてください」というふうに対応した。本丸（災害対応をしている事務室）に入ってもらおうと大変困るので、そこはクローズにした。その一方でメディアを通して情報を出さなければならないこともたくさんあるので、広報窓口を明確にし、災害対策本部会議をオープンにしていれば、おおむね混乱はないだろう。



写真-3.2.3 対策本部会議の生放送の状況その1¹⁾



写真-3.2.4 対策本部会議の生放送の状況その2¹⁾

三
解説

— 風水害時の日田市の配備体制 —

日田市の「災害対策マニュアル」²⁾では、災害規模に応じて以下のように配備体制の設置基準や編成等を定めていました。なお、平成29年7月時点では、災害警戒本部は、災害警戒室としていました。

【本庁職員配置（風水害）】

体制	災害情報収集室	災害警戒準備室		災害警戒本部	災害対策本部
防災指令	第1～2号	第3号	第4号	第5号	第6号
災害規模	小 → 大				
本部長	—	防災・危機管理課長	防災・危機管理課長	総務部長	市長
副本部長	—	—	総務課長	企画振興部長	副市長、教育長
編成	防災・危機管理課職員	防災・危機管理課職員	総務課、防災・危機管理課、シティセールス係	全部長、統括部、情報伝達部、課長	全職員
設置基準	・大雨洪水注意報発令、支援レベル2以上	・大雨、洪水、暴風、大雪警報発令	・小規模かつ局地的な災害の発生する恐れがあるとき。 ・土砂災害警戒情報の発令が予想されるとき。	・小規模かつ局地的な災害が発生し、更に被害の拡大が予想されるとき。 ・河川がはん濫注意水位を越え、1時間後に避難判断水位に達すると予測されるとき。	・被害が全市的に及ぶ場合、あるいは甚大な災害の発生が予想されるとき。 ・河川が避難判断水位に到達し、かつ今後、水位の上昇が見込まれるとき。
招集方法（時間外）	自主的に出勤	参集メール及び電話連絡			

一 避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告・指示（緊急）の概要

「避難準備・高齢者等避難開始」とは、「人的被害の発生の可能性がある」と判断された時点で発令され、要配慮者等、特に避難行動に時間を要する者が避難行動を開始しなければならない段階であり、その他の人々に避難準備を求めるものである。一般的に「避難勧告」より前段階で発令する。

「勧告」とは、その地域の市民を拘束するものではないが、市民がその趣旨を尊重することを期待して避難のための立ち退きを勧め又は促す行為であり、「指示（緊急）」とは、被害の危険が目前に切迫している場合等に発せられ、「勧告」よりも拘束力が強く、市民を避難のため立ち退かせるものである。

日田市の「災害対策マニュアル」²⁾では、これらの概要を以下のように定めています。発令の判断基準等を同マニュアルでは定めています。なお、警戒レベルは、令和元年に運用を始めた情報で、平成29年7月時点は、マニュアルには記載していませんでした。

	<警戒レベル3> 避難準備・高齢者等避難開始	<警戒レベル4> 避難勧告	<警戒レベル4> 避難指示（緊急）
条件	気象状況等により過去の災害の発生例、地形等から判断し、災害発生のおそれがあり、事態の推移によっては避難勧告・指示（緊急）等を行うことが予想される場合	当該地域又は土地・建物等に災害が発生するおそれがある場合	状況が更に悪化し、避難すべき時期が切迫した場合、又は災害が発生し現場に残留者がある場合
市民に求める行動	①要配慮者等、特に避難行動に時間を要する者は、計画された避難場所への避難行動を開始 ②上記以外の者は、家族等との連絡、非常用持出品の用意等、避難準備を開始	①通常の避難行動ができる者は、計画された避難場所等への避難行動を開始 ②上記以外の者の内、要支援者は支援者協力による避難行動の開始	①避難勧告等の発令後で避難中の市民は、確実な避難行動を直ちに完了 ②未だ避難していない対象住民は、直ちに避難行動に移るとともに、そのいとまがない場合は生命を守る最低限の行動
伝達内容	①勧告者 ②避難準備をすべき理由 ③危険地域 ④携行品その他の注意	①勧告者 ②避難理由 ③避難場所 ④避難後の当局の指示、連絡等	同 左
伝達方法	①広範囲の場合 テレビ、ラジオ、防災行政無線、携帯メール、広報車等 ②小範囲の場合 マイク放送、携帯メール、広報車等 ③必要に応じて上記を併用	①避難準備・高齢者等避難開始と同じ ②防災無線はサイレン併用 ③ただし必要に応じて、自主防災組織等による口頭伝達	同 左

(4) 対策本部会議の概要

以下、災害対策本部会議開催の推移と議事内容をごく一部ではあるが記載する。
 災害対策本部会議は、本部長（市長）、副本部長（副市長、教育長）、「統括部」、「情報伝達部」、「市民対策部」、「商工対策部」、「福祉対策部」、「教育対策部」、「農林対策部」、「建設対策部」、「上下水道対策部」及び「消防対策部」から構成されている。
 また、随時、消防機関、自衛隊、大分気象台、国土交通省、保健所等が本会議に参加した。

表-3.4.1 災害対策本部会議開催の推移と代表的議事内容

日付	開始時刻	会議名称	代表的な議事内容等（ごく、一部のみ）
7月5日 (水)	16:30	第1回 災害対策本部会議	【情報伝達対策部】 ・小野地区上小竹付近に孤立集落あり。 ・鶴河内地区でも孤立集落あり（詳細不明）。 【消防】 ・大鶴の名本地区で屋根に10人避難者が存在。救助中である。
	18:00	第2回 災害対策本部会議	【福祉対策部】 ・大鶴の子ども園では9人が帰れないため、園に泊まる。 【教育対策部】 ・大明中学校2人、三隈中学校7人が保護者の迎えがないため学校に待機している。
	21:30	第3回 災害対策本部会議	【情報伝達対策部】 ・JR鉄道橋が流出。光ケーブル小野地区断線。停電1,200戸。 【教育対策部】 ・大明中学校2人が学校に待機している。
7月6日 (木)	0:00	第4回 災害対策本部会議	【建設対策部】 ・国道の全面通行止め12カ所（冠水8カ所、土砂崩れ4カ所）。 ・2カ所花月川が崩れており、市道の通行止めを行っている。
	04:30	第5回 災害対策本部会議	【統括部】 ・孤立している小野振興センターの避難者109人は、自衛隊のヘリコプターで陸上競技場に輸送し、バスで、アオーゼに輸送する。 【自衛隊】 ・4:30小野地区に偵察隊が入っている。
	10:00	第6回 災害対策本部会議	【統括部】 ・小野振興センターと小野小学校の間で崖崩れが発生。 【消防本部】 ・援助隊チームで大鶴地区の浸水状況等を確認中。 ・大鶴で男3人、女3人の計6人、小野地区の安否が不確認。 【自衛隊】 ・小野地区の ^{なぎの} 椰野でがけ崩れが発生し、2人(男1人、女1人)が巻き込まれた可能性。救出段階までは至っていない。

日付	開始時刻	会議名称	代表的な議事内容等（ごく、一部のみ）
7月6日 (木)	13:00	第7回 災害対策本部会議	<p>【消防本部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土砂ダム決壊のおそれのある避難者42人をヘリ救出。 <p>【自衛隊】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土砂ダム確認中。小野地区の柳野で土砂崩れ被害者3人救出（うち1人心肺停止）。 <p>【商工対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼食配達完了。小野小・戸山中学校はこれから手配。夜は避難者数を確認し、準備。 <p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害救助法が適用される。
	16:10	第8回 災害対策本部会議	<p>【情報伝達対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・孤立集落は全15件で、うち3件は復旧。残り12件は、小野5件、大鶴4件、東有田2件、三花1件。 <p>【福祉対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社協によるボランティアセンターは、土曜日の開設予定。
	20:00	第9回 災害対策本部会議	<p>【消防本部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・16:17 君迫町の水路に倒れていた方を救助したが死亡。 ・16:18 本人確認。
7月7日 (金)	04:30	第10回 災害対策本部会議	<p>【統括部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話不通の多い地区について、ローラー作戦にて安否確認を行う予定。 <p>【農林対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害調査は8日から本格実施の予定。 <p>【建設対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全面通行止及び片側通行合計で62件。 <p>【上下水道対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北部簡水は、早ければ本日の午前中に復旧するのではないか。 <p>【教育対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大明中学校で1人待機の生徒、家族は自宅で無事であるが孤立で迎えは困難。 ・文化財 豆田町伝建地区、床上、床下浸水箇所あり。 <p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路復旧を急ぐこと。 ・災害後の対応について準備を随時行うこと。 ・資金等の窓口の設置や情報発信を行うこと。
	11:00	第11回 災害対策本部会議	<p>【統括部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大肥本町の田代川にて遺体1体を発見した。 ・人的被害は死亡者3人、負傷者6人。 <p>【情報伝達対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難者は266人。 ・日田一光岡間のJR運休に伴い、日田一吉井間で臨時運行バスを検討している。 <p>【市民対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害廃棄物収集開始7/7(金)13:00～。 <p>【教育対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内小中学生の全員無事を確認。

日付	開始時刻	会議名称	代表的な議事内容等（ごく、一部のみ）
7月7日 (金)	19:00	第12回 災害対策本部会議	<p>【消防本部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日、大肥本町よりローラー作戦実施。 <p>【統括部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自衛隊、市職員及び九電職員の6人が皿山に入り、本日宿泊して状況確認を行う。 ・人的被害は死亡者3人、負傷者4人の計7人。 ・連絡が取れない方8:30時点は133人、18:30時点で83人である。 <p>【教育対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大明中学校で待機の1人は保護者が引き取った。 <p>【自衛隊】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日52人救出、全部で62人救出予定。 ・自衛隊の簡易風呂をアオーゼなど2カ所に設置予定。
7月8日 (土)	05:00	第13回 災害対策本部会議	<p>【統括部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡が取れない方、昨夜83人。4時現在で46人となり37人の確認ができた。小野地区のリストができればもう少し確認がとれるだろう。 <p>【福祉対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健師が市内を循環する。医師会の協力も受けている。
	19:00	第14回 災害対策本部会議	<p>【統括部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡が取れない方リストは、18:30現在0人である。 <p>【福祉対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンターに参加申込が186人。85件のニーズがあり、そのうち17件（豆田・吹上・丸の内町）で作業を行った。 <p>【建設対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全面通行止34カ所、片側通行12カ所。 ・花月川の応急復旧工事は順調である。 <p>【警察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜明地区から大鶴地区に入り、パトロールを実施。 <p>【国交省】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明日は、石井国交大臣が来る予定。 <p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨機応変に改善を重ねながら行ってほしい。
7月9日 (日)	05:00	第15回 災害対策本部会議	<p>【福祉対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難者の中に熱中症・脱水症になった方が数人出てきているので、その対策として空調設備の整備された避難所への移送を行う。 <p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨日から大きく変更があったのは、避難者の健康面でのケアが必要になってきたということ。 ・福祉対策部が避難者の移送を行うが、災害対策について中長期的なスパンで考えていく必要がある。

日付	開始時刻	会議名称	代表的な議事内容等（ごく、一部のみ）
7月9日 （日）	19:00	第16回 災害対策本部会議	<p>【情報伝達対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難者 189 世帯、367 人（18：30 現在）。 ・指定避難所 6 カ所 自主避難所 2 カ所。 ・孤立地域の状況 小野：鈴連・殿・源栄 10 集落 129 人、大鶴地区：鶴城 小鹿田集落 20 人 計 149 人。 <p>【商工対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活用品等必要に応じて対応している。 ・民間の炊き出しも増えている。 <p>【建設対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全面通行止 30 カ所、片側通行 15 カ所。 ・小野地区の土砂撤去については 3 段階に分けた復旧を予定。 <p>【上下水道対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小野地区 40 世帯断水、天候回復しているので、明日職員を派遣し、修繕を行う。 <p>【西部保健所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マットに寝ているとエコノミークラス症候群になる可能性があるため、専門の先生に集中的に入ってもらうことを検討している。 ・車中泊の方は膝をまげたまま寝ることからリスクが高まる。避難所の職員との連携が必要（市長：福祉と連携を取りながらやってくれ）。 <p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所対応など、連携しながら対応をすすめてくれ。 ・明日から通常勤務と災害対応を同時に進めていくことになる、一番きつい時期になる。 ・体制も 1 / 3 体制にすることで、職員は体力を回復して対応に当たってくれ。
7月10日 （月）	08:00	第17回 災害対策本部会議	<p>【自衛隊】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き物資の輸送、入浴支援を行う。 <p>【警察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24 時間体制で防犯パトロールを実施する。 <p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害の状況が把握できてきた。 ・復旧・復興は、市が一体となって取り組まなければならない。夜間工事の騒音に対する苦情やごみ回収に対する苦情、災害ごみ以外のごみが排出されるなど、一部理解が得られていない状況もある。被災していない方も含めた市民全員に理解を得た上で復旧・復興に向けた取組を進める必要がある。どこかのタイミングで、メッセージを出していきたい。

日付	開始時刻	会議名称	代表的な議事内容等（ごく、一部のみ）
7月10日 (月)	19:00	第18回 災害対策本部会議	<p>【統括部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日、NTTが小野地区の電話回線復旧作業を行った。15:00過ぎに復旧済み。 ・ただし、大鶴地区鶴城町の古田はまだ復旧していない。 <p>【市民対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日から災害廃棄物の回収を本格的に実施。夜明振興センター横で車両210台分、浄化センター横で250台分の回収を行っている。 <p>【自衛隊】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日、孤立集落からヘリで30人を移送した。 ・給水2カ所、入浴施設3カ所の運営を引き続き実施する。 <p>【警察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性部隊が避難所への訪問を行った。 ・24時間体制で被災地域の防犯パトロールも実施している。 <p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き避難地域の復旧・復興を行っていきたい。 ・今後は、これまでの被災状況の確認等を踏まえた避難者への対応や被災地域の復旧等、行政でなければできない仕事が増えてくる。この対応は、行政最大の使命であり、正念場でもある。気を引き締めて取り組んでいきたい。
7月11日 (火)	08:00	第19回 災害対策本部会議	<p>【情報伝達対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難者138世帯、282人(06:30時点)(昨日18:30と比べて△34人)。 ・指定避難所5カ所、自主避難所2カ所。 <p>【上下水道対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・椰野地区以外は給水が可能となっている。
	19:00	第20回 災害対策本部会議	<p>【大分地方气象台】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎～福岡にかけて活発な梅雨前線あり。 ・明日の朝にかけて九州北部を通過する見込み。 ・0:00～9:00にかけて大雨になりやすい状況。 <p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大鶴、東有田に避難勧告を出す。 ・小野は引き続き避難指示・避難勧告を継続する。 ・19:10で避難勧告発令。 <p>【福祉対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社協ボランティア163人、咸宜・桂林・三花・東有田・大鶴・夜明地区、27件。 ・7月15日から消毒開始予定。 <p>【建設対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宝珠山日田線、西側ルートが明日開通予定。 <p>【自衛隊】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10人をヘリで搬送した。 <p>【警察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間も引き続き防犯活動を行う。 ・要望に応じていきたい。

日付	開始時刻	会議名称	代表的な議事内容等（ごく、一部のみ）
7月12日 (水)	08:00	第21回 災害対策本部会議	<p>【大分地方気象台】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨のピークは過ぎてるが、午前中は、1時間に20mmの雨の可能性がある。 ・本日も気温が高く、引き続き熱中症対策を万全に。 <p>【統括部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日、安倍総理大臣、高市総務大臣が来る。JRの被災現場と、アオーゼの避難所を見た後、市役所で意見交換を行う。 <p>【建設対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県道宝珠山日田線（国県16）、県道宝珠山日田線（国県26）、県道宝珠山日田線（国県28）について、解除又は片側通行の見込み。 ・この道は、孤立している小野・大鶴地区への唯一の道路。道幅も狭く、離合もできない道路となっており、復旧に伴う車両や地元住民などの通行に支障があるので、関係者以外の通行は遠慮していただきたい。
	19:00	第22回 災害対策本部会議	<p>【国交省】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国交省によるテックフォース隊が、7月7日より災害調査を6班（関東・近畿・四国・九州整備局）で行ってきた。 ・防災ヘリ・照明車・災害本部車で災害状況調査を行い、河川・道路の中間報告まとめについて、市長へ報告を行う（資料を手渡し）。 <p>【統括部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日、安倍総理大臣、高市総務大臣による現地視察、意見交換が行われ、市長より要望書を渡している。その他JRの被害箇所、アオーゼの避難所を訪問している。 <p>【福祉対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所の生活環境設備について、冷房設備は整備済み。洗濯機、乾燥機、冷蔵庫等の要望があるため、県の支援を受けながら、順次充実していきたい。 ・福祉避難所は、2人減少し、現在、2施設2人。 ・災害に関するお知らせは、第1弾として自治会長を通じてチラシの配布を行ったが、第2弾として、広報ひたでお知らせを行う。 <p>【市民対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境省、大分県より夜明振興センター、浄化センター、清掃センターでの災害廃棄物の処理状況について、実地調査があり、良好という評価をいただいた。 <p>【警察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害救助から防犯活動へと変わってきている（防犯活動にアヤメ部隊が活動中）。 ・被災地区において、24時間体制でパトロールを継続実施中。

日付	開始時刻	会議名称	代表的な議事内容等（ごく、一部のみ）
7月13日 (木)	08:00	第23回 災害対策本部会議	<p>【統括部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自衛隊が本日9時をもって撤収（本庁北口玄関にて見送り）。 <p>【教育対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自衛隊撤収に伴う入浴施設撤去を受け、被災者無料入浴施設へ巡回バスを運行。
	19:00	第24回 災害対策本部会議	<p>※本部会議について、今後、復旧や調査が主となるので、明日から本部会議を19:00の1回のみとする。その他は必要に応じて行う。19:00の本部会議で本日の作業内容及び明日の予定を言っていただきたい。</p> <p>【統括部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水郷テレビについて、大鶴地区は小鹿田集落まで復旧。小野地区は復旧まで4日間程度かかる見込み。 <p>【福祉対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き避難所の把握、健康管理を医師会・保健所と連携して避難所運営に当たる。 ・大鶴振興センターに7/16にサテライトを開設。 <p>【教育対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小野地区の開通に伴い、文化的景観である小鹿田の皿山、池ノ鶴地区の調査を行い、唐臼の流出、石垣の崩壊などの被害が確認できた。 <p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日、自衛隊が撤退した。 ・避難所の健康管理を徹底してやってほしい。
7月14日 (金)	19:00	第25回 災害対策本部会議	<p>【上下水道対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小野地区柳野のみ断水。損傷が大きい。時間がかかる。地域の方にはご理解をいただきたい。 <p>【消防本部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱中症患者を搬送。 ・ボランティアの方の活動が連休中多くなる。熱中症に対する救急体制を万全にする。 <p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱中症対策をしっかりやってもらいたい。 ・市民の方においては、体調管理を万全に、天気予報などの情報に注意してほしい。 ・市民力を結集して困難を乗り越えていきたい。
7月15日 (土)	19:00	第26回 災害対策本部会議	<p>【情報伝達対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定避難所5カ所、自主避難所1カ所に避難者59世帯、126人（18:00時点）。 <p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日、小野地区の道路が開通し、本格的にいろいろと開始していく。 ・本日、県の皆さんと協議を行い、申し入れも行った。 ・避難者には寄り添って丁寧に対応していただきたい。
7月16日 (日)	17:00	第27回 災害対策本部会議	<p>【福祉対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消毒について、三花地区は終了した。 ・本日、咸宜・桂林地区を行った。明日から、光岡地区に入る。

日付	開始時刻	会議名称	代表的な議事内容等（ごく、一部のみ）
7月17日 (月)	17:00	第28回 災害対策本部会議	<p>【情報伝達対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日16時現在で、46世帯、93人が避難している。 <p>【市民対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市中心部に設けている災害ゴミ置き場に、災害で生じたゴミではないものも出されていたと回収業者から連絡があった。市から自治会へそういうことのないようにとお願いした。 <p>【大分地方気象台】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明日は広い範囲で雨。朝鮮半島にある前線が南下し、九州北部にかかる。 <p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今夜半から明日にかけて雨のもよう。地盤がゆるんでいるので、何が起こるかかわからない。 ・これ以上の犠牲者を出さないように、はずれてもいいので前倒しで避難の情報を示すようにしてもらいたい。 ・明日も暑くなるので、体調には十分気を付けてほしい。
7月18日 (火)	17:00	第29回 災害対策本部会議	<p>【建設対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮設住宅の相談11件、4世帯が入居予定。関係機関と協議中。 <p>【上下水道対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小野地区榎野、水を運んでいる。給水車の配置を行った。 <p>【保健所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部チームは本日をもってすべて撤退した。 ・医師会による巡回は引き続き行っていただける。
7月19日 (水)	17:00	第30回 災害対策本部会議	<p>【統括部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・罹災証明は、昨日までに594件の受付、本日263件調査終了。今週で集計、判定を行い、来週月曜日より証明書の発行を行う予定。 <p>【教育対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期化による避難者の健康被害が懸念されており、大分県が一時避難所を市内の旅館等へ無料で宿泊できるようにするとのこと。対象は要介護者や妊婦などの一定要件のもと7月24日より行う（料理は家庭料理程度のもの）。 <p>【国交省】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9班51人体制で道路などの調査を行っている。 <p>【副市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害より2週間が経過し、疲れ、気の緩みが出てくる。気を緩めずに、被災者のケア、災害の復旧復興に取り組んでいただきたい。

日付	開始時刻	会議名称	代表的な議事内容等（ごく、一部のみ）
7月20日 (木)	17:10	第31回 災害対策本部会議	<p>【商工対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アオーゼで活動してくれていた高森町のキッチンカーが今日で活動が終了した。 ・本日、小野地区椰野に簡易の給水設備が整ったので、そこへの水の搬送は昨日で終了した。 <p>【市民対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ置場で火災が発生しないように日田消防署とともに温度調査を実施。清掃センターは33℃、夜明振興センターは25.9℃で心配ない。 <p>【農林対策部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地の災害調査が昨日まででひと通り終了した。 ・7月8日から12日間で、農地や農道等も含む農業施設を1,835件調査した。このうち大鶴地区が620件、東有田が441件、小野地区が424件。 ・調査漏れもあると思うので、精査も重ねると数値は変動するだろう。 <p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災者は、今後どうなっていくのか一生懸命に情報を探している。 ・小野地区小鹿田で行った支援策の説明のように、いくつもの課が地域に入って支援できることを伝えていくことが大切。 ・住宅ローンを抱えて被災したことで絶望的になっている方もいる。これを救済する措置が法的にも動いているようだが、被災者にこの情報があるのと無いのとでは安心感がまるで違う。 ・被災者の精神的負荷を緩和してあげたいので、常に被災者の立場に立って、情報を提供して欲しい。 ・出来る作業には限界がある。時間はかかるが情報を提供することで、被災者が未来の展望をいただけるようにして欲しい。 ・また、国からの農機具の補助があるように、このようなメニューがあるだけでもやる気が起こるので、今後も見つけていくように。 ・「情報提供」と「支援対策」の2本立てで何事も取り組んで欲しい。 ・また、暑さと疲れもあるだろうから体調管理をしっかりとするように。

以後、8月2日まで毎日午後5時に会議を開催し、8月8日に災害警戒室に移行するまでには全部で52回に亘り災害対策本部会議を開催した。

3.3 消防、自衛隊、警察の救助・捜索等の活動

3.3.1 政府・消防庁・消防機関等の活動

以下、政府・消防庁・消防機関等の活動を、「平成29年版 消防白書」⁴⁾及び「消防庁：平成29年7月九州北部豪雨における消防機関の対応」⁵⁾での記述内容の引用や日田玖珠広域消防組合消防本部よりの提供データを基に紹介する。

(1) 政府の活動

内閣官房は、情報の集約、内閣総理大臣等への報告、関係省庁との連絡調整を集中的に行うため、7月3日16時46分に総理大臣官邸に情報連絡室を設置した。7月5日17時51分に福岡県に大雨特別警報が発表され、予想されるその後の気象状況により、甚大な被害が発生するおそれがあったことから、18時46分に情報連絡室を官邸連絡室に改組した。18時56分には、総理大臣から、①早急に被害状況を把握すること、②地方公共団体とも緊密に連携し、人命を第一に、政府一体となって、被災者の救命・救助等の災害応急対策に全力で取り組むとともに、住民の避難支援等の被害の拡大防止の措置を徹底すること、③国民に対し、避難や大雨・河川・浸水の状況等に関する情報提供を適時的確に行うことの指示が発せられた。

同日19時15分に開催された関係省庁局長級会議を経て、19時41分には官邸連絡室から官邸対策室への改組が行われた。福岡県及び大分県において、河川の氾濫、土砂災害等が発生したことを受け、内閣危機管理監は、関係省庁等の局長級幹部で構成される緊急参集チームを招集し、20時08分から緊急参集チーム協議を実施した。

7月7日には、内閣府副大臣を団長とする政府調査団が福岡県へ、7月9日には内閣府特命担当大臣（防災）を団長とする政府調査団が大分県及び福岡県へ派遣されたほか、7月7日から28日までの間、福岡県庁に政府現地連絡調整室が設置され、被災地方公共団体及び関係省庁が一体となった災害応急対策が実施された。

また、7月5日から7月19日までの期間において、関係省庁災害対策会議が8回開催された。



写真-3.3.1 政府調査団来庁時の対応(7月9日)その1



写真-3.3.2 政府調査団来庁時の対応(7月9日)その2



写真-3.3.3 政府調査団来庁時の対応(7月9日)その3

(2) 消防庁の対応

6月30日からの梅雨前線に伴う大雨に対し、7月3日に開催された関係省庁災害警戒会議に応急対策室長が出席した。同日15時08分には、全都道府県に対して「梅雨前線及び台風による大雨警戒情報」を発出し、警戒を呼びかけるとともに災害が発生した場合の適切な対応及び被害状況の報告を要請するなど、情報収集体制の強化を図った。

7月5日5時55分に島根県に大雨特別警報が発表されたことを契機として、同時刻、災害対策室を設置し（第1次応急体制）、情報収集体制のさらなる強化を図った。同日17時51分には、福岡県にも大雨特別警報が発表され、同時刻に災害対策室を国民保護・防災部長を長とする災害対策本部に改組した（第2次応急体制）。

被害状況に鑑み、福岡県及び大分県から緊急消防援助隊の派遣要請があることを想定し、7月5日19時55分以降、関係府県に対して緊急消防援助隊の出動可能隊数の報告及び出動準備を順次依頼した。21時12分に大分県知事から、翌6日0時00分に福岡県知事から、それぞれ消防応援の要請があり、関係府県の知事に対して緊急消防援助隊の出動を求めた。なお、緊急消防援助隊の活動等の詳細については別途記載する。

また、同日、被災地における情報収集、現地活動支援等のため、福岡県及び大分県へそれぞれ6人の消防庁職員を派遣し、福岡県では7月25日まで、大分県では7月12日まで活動を実施した。7月6日8時00分には、全庁を挙げての対応が必要となったことから、消防庁長官を長とする災害対策本部へ改組し（第3次応急体制）、災害応急対策にあたった。17時00分には、政府調査団の一員として、地域防災室長を福岡県に派遣した。その後、7月9日には、既に現地派遣されていた震災対策専門官が大分県における政府調査団に参加した。

また、災害応急対応が長期化する中、7月12日には、総務大臣及び消防庁長官が、福岡県及び大分県の被災地を視察し、被災自治体との意見交換を行った。

(3) 消防機関の活動

日田市では、地元の消防本部である「日田玖珠広域消防組合消防本部」、「日田市消防団」「大分県常備消防相互応援協定による活動隊（大分市消防局・別府市消防本部・宇佐市消防本部）」及び「緊急消防援助隊」が連携して、土砂崩れや浸水した地域において救助活動を展開した。また、土砂崩壊、路面冠水、倒木等により発生した孤立地域での捜索救助活動を実施した。

以下には、それぞれの組織の活動を簡単に記載した後、救助・捜索の写真を含めた状況について記す。

1) 日田玖珠広域消防組合消防本部・日田消防署の対応

○消防本部・消防署の活動の概要

119番通報が多数入電し、管轄する日田玖珠広域消防組合消防本部及び日田消防署は被災住民の救助活動、避難誘導等の対応に追われた。

7月5日（水）16時30分の大鶴地区の大肥本町で屋根の上等に避難している10人を救助すべく対応中であった。7月6日（木）の午前4時30分時点においては、熊本県・佐賀県の消防本部から56隊203名の緊急消防援助隊が総合体育館に集結を完了し、大鶴地区の上宮町上流域住民の救出活動、又は日田市内における豪雨災害による負傷者等の救急救助活動を行うこととなった。

7月6日（木）の13時30分時点では、同日9時過ぎに小野地区の山腹崩壊により形成された土砂ダムが決壊するおそれがあり、土砂ダム上流域の住民42名が救出を申し出ており対応中であることを市災害対策本部で報告している。この後、陸上自衛隊ヘリコプターでこの42名の救出補助として対応し、全員を救出している。

また、この日の市災害対策本部会議の終了後、日田玖珠広域消防組合消防本部・日田消防署が陸上自衛隊、警察署、消防緊急援助隊、市等の現場活動に直接携わる機関で活動調整会議を開催し、次の日は大鶴、小野地区で連絡が取れない住民を確認するためのローラー作戦と君迫地区、田代地区において行方不明になっている2名の捜索にあたることを協議し、他の活動機関と連携した活動を目指した。

これ以降も、緊急消防援助隊の応援を受けて、救急救助・捜索等の活動を継続した。

○活動時系列の概要

日田玖珠広域消防組合消防本部・日田消防署提供の資料に基づいて、大鶴地区と山田地区における救助活動を一部ではあるが、抜粋して以下に示す。

<7月5日から6日にかけて>大鶴地区での概要

- 7月5日 15:18 ・河川の増水で上宮町に4名の孤立者がおり救助を要する。また、上流の若八幡付近の集落にも孤立者が居るとの通報を受信。
・救助隊1隊出場。
- 15:28 ・大肥本町で通行中の軽トラックが流され2名乗車している可能性があるとの新たな救助要請を受信。
・救急隊1隊出場。緊急度から、救助隊をこの事案へ転戦。
- 15:38 ・上宮町の孤立事案へ救助隊の代替え部隊として消防隊1隊が出場。
- 15:49 ・大肥本町に転戦した救助隊から、軽トラックが流されたとの情報の地点に到着したが、増水で河川に近づけず車両を発見できない旨の報告（車両が流される前に2名とも自力避難完了）。また、同町名本橋付近の集落に10名ほどの孤立者が居るようだと報告。集落内の水位が1階軒まで達しており今後水位の上昇が懸念されるので、先に救助するとの報告。

- 16：09 ・上宮町へ向かった消防隊から、道路冠水のため上宮町に到達できない。よって、大肥本町の救助の応援をするとの報告。
- 16：10 ・大肥本町の救助活動現場に指揮隊出場。
- 16：14 ・人員搬送車で大肥本町に活動人員を投入。
- 17：12 ・大肥本町の救助現場が道路より低い位置にあり、はしご車をマイナス角度で伸梯すれば、救助できる可能性が高いとの現場判断を受け、はしご車出場。
- 17：32 ・大分県常備消防応援協定に基づき指揮支援隊の応援を要請。
- 17：48 ・上宮町の孤立事案へ向かった隊が、道路冠水により現場へ進行できず転戦することとなったので、別の消防隊が別ルートで上宮町へ出場していたところ、その隊から、別ルートもがけ崩れで通行しにくい状況にあるとの報告。
- 17：49 ・大肥本町の指揮隊から、50代女性1名を救出したとの報告。
- 18：00 ・上宮町へ進行していた隊から、鶴河内町山際地区で倒木を含む土砂崩れに阻まれ上宮町へ到達できないとの報告。
- 18：15 ・大肥本町の指揮隊から、6名救出内の1名は、はしご車で救出したとの報告。
- 18：25 ・大分県常備消防相互応援協定に基づく追加応援を要請。
- 18：47 ・大肥本町指揮隊から、激しい増水で救助できず、要救助者に一旦家の2階に上がり救助を待つように指示したとの報告。
- 19：00 ・上宮町へ進行していた隊から、車両での進行・後退いずれもできずとの報告、車両を残し、徒歩にて大肥本町の指揮隊位置まで一旦退避するとの報告。
- 19：31 ・人員搬送車で大鶴地区を警戒していた隊から、おおつるの家付近で孤立者を救助したので、大明小中学校まで搬送するとの報告。
- 21：12 ・大分県から先行して緊急消防援助隊の要請をしたとの連絡あり。
- 22：04 ・大肥本町の指揮隊から、現場の水位が下がっているとの報告。
- 22：23 ・大肥本町の指揮隊から、現場の水位がピーク時に比べ半分ほどとなったので救助活動を再開するとの報告。
- 22：49 ・大肥本町の指揮隊から救助活動継続中であるが、場所によって依然として水位が高く丸和興産団地には接近できないとの報告。
- 23：41 ・大肥本町の指揮隊から丸和興産団地には、10人の孤立者が居る模様との報告。

- 7月6日 0:02 ・大肥本町の指揮隊から丸和興産団地に隊員6名を投入予定であるが、泥に行く手を阻まれており救出には時間を要するとの報告。
- 0:50 ・大肥本町の指揮隊から丸和興産団地周辺の水位が下がり活動可能となった、救助を再開するとの報告。
- 1:02 ・丸和興産団地から5名救出中の旨、指揮隊から報告。
- 2:00 ・大肥本町指揮隊から大鶴地区の要救助者の救出を完了したとの報告。

※大鶴地区に指揮隊、救助隊、はしご車隊、消防隊、人員搬送車隊の計5隊18人が出場し救助活動にあたり、計32名の要救助者の救出。

※上宮町の孤立者救出については、6日早朝から再開することとなった。

<7月5日>山田地区での概要

- 7月5日 19:22 ・山田町の河川が増水しており、逃げ遅れが2名居て4tトラックの荷台で救助を求めているとの119通報を受け、ボートを積載した資機材搬送車隊が出場。
- 20:53 ・河川が増水又は道路崩壊等で通常進路が不通となっていたが、迂回に迂回を重ね山田町の現場に到着した資機材搬送車隊からボートの準備が完了次第、救出に向かう旨報告。
- 21:32 ・ボートで4tトラックの位置に到達し、要救助者2名と接触したとの報告。
- 21:46 ・要救助者2名の救助を完了したとの報告。

※山田町の現場には、道路事情により到着までに通常の3倍ほどの時間を要することとなった。

2) 消防団の対応

消防団は、住民の避難誘導や救助活動、安否確認をはじめ孤立集落の確認や巡回活動など、地域の安心・安全を守るための幅広い活動を実施した。

そのような中、本市においては、巡回活動中の消防団員1人が、第2章の被災の概要で述べた「小野地区の地すべり現場において」、崩土に巻き込まれて犠牲となるという痛ましいことが起こった。

消防団の主な活動内容を整理すると、以下のとおりである⁴⁾。

- ・住民の避難誘導、救助活動、安否確認
- ・道路、河川や孤立集落の確認、巡回活動
- ・土砂災害警戒のためのブルーシート張り、がれき除去
- ・警戒活動、土のう積み
- ・行方不明者の搜索活動、土砂・流木の撤去、河川の搜索
- ・ポンプ車による排水作業
- ・給水活動、孤立地域への食料の運搬 等

具体的には、以下の活動状況であった⁶⁾。

- 大分県 日田市消防団 述べ活動人員 約720名(7月5日～7月10日)
最大活動時人員 約340名(7月6日)

日田市消防団【実団員数 1,022名】

【主な動き】

- ・7月5日は、避難勧告等の広報活動、地域巡回活動、水防活動及び救助活動等を実施。
- ・7月6日以降は、上記活動に加え、行方不明者の搜索活動を実施。
- ・7月10日には主な対応を完了。

※7月6日午前10時頃、消防団員1名が、道路・河川や孤立集落の確認の巡回中に土砂崩れに巻き込まれて殉職された。

3) 緊急消防援助隊の活動

以下、日田市を中心とした大分県内における緊急消防援助隊の活動を、「平成29年版 消防白書」⁴⁾での記述内容を引用しながら紹介する。

7月5日に消防庁長官から出動の求めを受けた9県（愛知県、山口県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県及び宮崎県）の緊急消防援助隊は、中津市及び日田市に向け、迅速に出動した。

福岡市消防局指揮支援隊は、大分県庁に設置された消防応援活動調整本部に部隊長の属する指揮支援隊として参集し、大分県、大分県内消防本部及び消防庁派遣職員のほか、警察、自衛隊、海上保安庁、DMAT、気象庁、国土交通省等の関係機関とも連携し、被害情報の収集・整理、緊急消防援助隊の活動管理等を行った。また、二次災害の発生を防止するため、降雨による活動中止判断の基準を明確にし、指揮支援隊長を通じて各県大隊長に周知した。



写真-3.3.4 市役所内での会議⁴⁾

熊本市消防局指揮支援隊は、日田玖珠広域消防組合消防本部に参集し、警察、自衛隊等の関係機関と連携を図り、被害情報の収集・整理、日田市に派遣された佐賀県大隊及び熊本県大隊の活動管理等を行った。その後、7月10日には、日田市における緊急消防援助隊の活動がおおむね終了したため、消防庁長官からの部隊移動の求めを受け福岡県の甘木・朝倉消防本部へ出動した。

陸上隊は、当初、宮崎県大隊が中津市にて、佐賀県大隊、熊本県大隊及び愛知県大隊が日田市にて、捜索・救助活動を実施した。その後、7月7日には、中津市での活動がおおむね終了したため、宮崎県大隊は日田市に部隊移動した。7月9日には、日田市での捜索・救助活動の進捗を踏まえ、消防庁長官が部隊移動を求めたことから、佐賀県大隊及び愛知県大隊は、大分県から福岡県へ出動した。

さらに、熊本県大隊及び宮崎県大隊も、日田市での捜索・救助活動がおおむね終

了したため、活動を地元消防機関に引継ぎ、同日、熊本県大隊は、消防庁長官からの部隊移動の求めを受け福岡県へ出動し、宮崎県大隊は活動を終了した。

中津市や日田市においては、河川の氾濫や土砂崩れにより発生した孤立地域に、水陸両用バギーなども活用しながら進入し、安否確認を含め捜索・救助活動を広範囲に実施した。



写真-3.3.5 水陸両用バギーによる捜索・救助活動⁴⁾



写真-3.3.6 全地形対応車による孤立地域への進入⁴⁾



写真-3.3.7 ヘリコプターのホイストによる救助⁴⁾
(山口県消防防災航空隊提供)

さらに、愛知県大隊の全地形対応車が、土砂等が堆積した道路障害も乗り越え、孤立地域への効率的な進入を図った。

航空小隊は、ヘリコプターのホイスト等により、陸上からの救助が難しい孤立地域における住民の救助活動を行い、孤立した福祉施設での要救助者16人を救助するなど、派遣期間中に19人を救助した。また、消防庁ヘリ5号機（高知県消防防災航空隊運航）のヘリサットシステムを活用し、上空からの効果的な情報収集活動を実施した。

これらの懸命な活動の結果、陸上隊及び航空小隊を合わせて29人を救助した。

こうした緊急消防援助隊の大分県内での活動は、7月5日から7月10日までの6日間にわたり行われ、出動隊の総数は、9県（愛知県、山口県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県及び宮崎県）延べ528隊、2,090人となった。また、活動のピークは、7月7日で、100隊、408人であった。

(4) 消防機関の救助・搜索活動状況

以下、救助・搜索活動状況を幾つかの写真で紹介する。

1) 上宮町救助隊の活動状況



写真-3.3.8 救助へ向かう車中からの状況



写真-3.3.9 車両を残して脱出中



写真-3.3.10 土砂崩れにより車両前後の行く手を阻まれた現場

ニ 解説

— 緊急消防援助隊とは？ —

(緊急消防援助隊のHPより)

緊急消防援助隊は、阪神・淡路大震災を教訓に、全国の消防機関による応援を速やかに実施するため、平成7年度に創設されました。

平成16年4月には、消防組織法により法律に基づいた部隊となり、平成20年10月現在では、全国789消防本部から3,961部隊が登録されています。

緊急消防援助隊は、指揮支援部隊・都道府県隊指揮隊・消火部隊・救助部隊・救急部隊・後方支援部隊・特殊災害部隊・特殊装備部隊・航空部隊・水上部隊と多岐にわたる精鋭部隊から構成されています。

2) 大肥町救助現場



写真-3.3.11 大肥町での救出状況その1



写真-3.3.12 大肥町での救出状況その2



写真-3.3.13 大肥町での救出状況その3



写真-3.3.14 大肥町での夜間の救出状況



写真-3.3.15 大肥町救出現場の状況

3) 緊急消防援助隊宿営地の状況



写真-3.3.16 緊急消防援助隊宿営地の状況

3.3.2 自衛隊の活動

原田市長からの自衛隊派遣要請は、7月5日（水）の19時19分に、広瀬大分県知事宛に出された。要請文には、以下の理由が記された。

災害の状況及び派遣を要請する事由

梅雨前線に伴う平成29年7月5日（水）午前中からの集中豪雨により、日田市小野地区で避難者が孤立し、救助活動が必要となったが、既に日田市内各所で河川の溢水や床上浸水が発生しており、日田消防署だけでは対応が困難な状況にあるため。

以下、防衛省、「平成29年7月九州北部豪雨に係る災害派遣について、8月20日」⁷⁾を参照して自衛隊の活動について記す。

1) 活動部隊

活動部隊は、以下のように報告されている。

活動部隊	陸 自	第4師団司令部（福岡）、第16普通科連隊（大村）、第40普通科連隊（小倉）、第41普通科連隊（別府）、第4特科連隊（久留米）、第4後方支援連隊（福岡）、第4戦車大隊（玖珠）、第4施設大隊（大村）、第4通信大隊（福岡）、第4飛行隊（目達原）、第4偵察隊（福岡）、第4特殊武器防護隊（福岡）、第24普通科連隊（えびの）、第8後方支援連隊（北熊本）、第8通信大隊（北熊本）、第2高射特科団（飯塚）、第5施設団（小郡）、西部方面特科隊（湯布院）、西部方面航空隊（目達原）、西部方面通信群（健軍）、第6後方支援連隊（神町）、第9後方支援連隊（八戸）、第1後方支援連隊（練馬）、東部方面航空隊（立川）、第3後方支援連隊（千僧）、第14後方支援隊（善通寺）、自衛隊福岡地方協力本部、自衛隊大分地方協力本部
	海 自	第22航空群（大村）、第72航空隊（大村）
	空 自	西部航空警戒管制団（春日）、芦屋救難隊（芦屋）、新田原救難隊（新田原）、春日ヘリコプター空輸隊（春日）、第2高射群（春日）
	地 防	九州防衛局

2) 活動規模

活動規模は、以下のように報告されている。

活動規模	人員	延べ約 81,950 名
	車両	延べ約 7,140 両 (うち水トレーラー156両、水タンク車293両、給水車50両)
	航空機	延べ 169 機

3) 活動実績

活動実績は、以下のように報告されている。

	活動内容	活動場所	実績	
人命救助	人命救助	朝倉市、東峰村、日田市	累計	658 名
	行方不明者搜索等	朝倉市、東峰村、日田市	累計	8 名
	道路の啓開 (瓦礫除去)	朝倉市、東峰村、日田市	累計	約 1.25km
生活支援	物資輸送	朝倉市、東峰村、日田市	食料	累計約 12,900 食
			水	累計約 20,000 本
			日用品	累計約 21,890 点
	給水支援	朝倉市、東峰村、日田市、玖珠町	累計	1,356.3 t
	入浴支援	朝倉市、東峰村、日田市	累計	10,479 名
	給食支援	朝倉市、東峰村	累計	2,309 食
その他	人員等輸送	朝倉市、東峰村、日田市	累計	301 名

4) 日田市での活動実績

日田市でのみの活動実績は、以下のとおりであった。

表-3.3.1 自衛隊の日田市での活動実績その1

【日田市活動実績（7/6～12）】

部隊名	任務	装備	活動場所
第4戦車大隊	・現地指揮	・小型トラック×2 ・大型トラック×1 ・WAPC×1 ・救急車×1	・日田市役所庁舎内 ・大分県庁（連絡幹部）
	・避難住民輸送支援	・大型トラック×3	・日田市陸上競技場
	・孤立者搜索	・小型トラック×1 ・大型トラック×2 ・オートバイ×2	・小野地区 ・大鶴地区
	・無線中継	・中型トラック×1	・鏡山 ・いいちこ日田蒸留所
	・給水支援	・大型トラック×2 ・1t水トレーラ×2	・三河地区
第4飛行隊 西部方面飛行隊 海上自衛隊 航空自衛隊	・避難住民輸送支援	・第4飛行隊 UH-1×3 ・西部方面飛行隊 UH1×2、UH60×2、OH6×1、 CH47×1 ・海上自衛隊 SH60×4、UH60×1 ・航空自衛隊 CH-47×2	・小野地区老人憩いの家 ・血山地区 ・大鶴桐尾地区 ・大鶴中崎地区
第41普通科連隊	・現地本部勤務 ・道路情報収集 ・重機運用	・小型トラック×6 ・大型トラック×9 ・大型セミトレーラ×2 ・バケット×2	・日田市役所庁 ・小野地区 ・大鶴地区
第4施設大隊	・現地本部勤務 ・道路情報収集 ・重機運用	・小型トラック×1 ・大型トラック×3 ・大型セミトレーラ×2 ・バケット×2	・日田市役所庁 ・小野地区 ・大鶴地区
第1後方支援連隊		・小型×3 ・大型×7 ・水タンク車×2 ・救急車×1 ・野外入浴セット×2	7/9～12 大鶴公民館
第3後方支援連隊	・生活支援(入浴)	・小型×2 ・大型×6 ・水タンク車×2 ・救急車×1 ・野外入浴セット×2	7/8 三和小学校 7/9～12 夜明振興センター
第14後方支援連隊		・小型×1 ・大型×4 ・水タンク車×2 ・ユニック車×1 ・部品車×1 ・電装品修理車×1 ・選択トレーラ×1	7/8～12 中城公民館

表-3.3.1 自衛隊の日田市での活動実績その1

【日田市活動実績（7/6～12）】

任 務		実 績							合計
		7/6	7/7	7/8	7/9	7/10	7/11	7/12	
給水支援		50ℓ	440ℓ	60ℓ	230ℓ	0ℓ	—	—	780ℓ
避難住民輸送	人員数	61名	52名	26名	55名	30名	11名	0名	235名
市職員等の輸送		0名	0名	20名	49名	38名	56名	9名	172名
ヘリ機数		9機	9機	14機	13機	20機	22機	4機	91機
航空物資輸送		1 飲料水 536リットル 2 食 料 カップ麺 556食、缶詰 350缶、レトルト食品 334食、弁当 180食、パン 100個、その他調味料等多数 3 日用品 ローソク 3400本、カセットボンベ 90本、衛生用品 16箱、乾電池 210本、トイレトペーパー 60本、ラジオ 3台 4 燃 料 ガソリン 260ℓ、灯油 60ℓ、軽油 138ℓ 5 その他 医療器材、衣料品、発電機 5機、配合飼料 38							
生活支援 (入浴)	三和小学校	—	—	44名	—	—	—	—	44名
	AOSE	—	—	4名	6名	1名	26名	32名	69名
	夜明振興 センター	—	—	—	14名	9名	9名	10名	42名
	大鶴公民館	—	—	—	54名	53名	33名	38名	178名

5) ヘリコプターの運航状況

日田市でのヘリコプターの運航状況は、自衛隊の他に消防と警察を合わせて、以下のとおりであった。

表-3.3.3 自衛隊、消防、警察の日田市でのヘリコプター運航実績

ヘリポート：日田市陸上競技場、皿山グラウンド、小野地区老人憩いの家グラウンド、石井河川敷グラウンド

	自衛隊 (5機運用)			消 防 (4機運用 大分 高知 山口 愛媛)			警 察		
	運行回数	救助人数	支援物資等	運行回数	救助人数	支援物資等	運行回数	救助人数	支援物資等
7月6日	9	61	情報収集、発電機、食料、生活用品、先遺隊(九電、市職員)等	8	19	情報収集			
7月7日	9	52	情報収集、発電機、食料、生活用品、先遺隊(九電、市職員)等	3	2	情報収集	4	3	情報収集等
7月8日	14	26	情報収集、発電機、食料、生活用品、先遺隊(九電、市職員)等	6	1	情報収集、医師搬送	10	1	情報収集等
7月9日	13	55	情報収集、発電機、食料、生活用品、先遺隊(九電、市職員)等				2		衛生携帯配布
7月10日	20	30	情報収集、発電機、食料、生活用品、先遺隊(九電、市職員)等						
7月11日	22	11	情報収集、発電機、食料、生活用品、先遺隊(九電、市職員)等						
7月12日	4	-	情報収集、発電機、食料、生活用品、先遺隊(九電、市職員)等						
	運行回数	91		運行回数	17		運行回数	16	
	搬出人数	235		搬出人数	22		搬出人数	4	

全合計	運行回数	124
	搬出人数	261

活動状況の写真を、以下に示す。



写真-3.3.17 自衛隊の活動状況その1



写真-3.3.18 自衛隊の活動状況その2



写真-3.3.19 自衛隊の活動状況その3

3.3.3 警察他の活動

(1) 警察の活動

警察は、連絡が取れず安否確認ができなくなった方などの問い合わせに順次対応する等、災害直後は救助活動を行った。また、被災地域では避難誘導・交通規制活動を行い、さらに、孤立地域への物資輸送活動（衛星電話を含む）を行った。

次に、被災地域の防犯パトロールを中心に活動した。防犯パトロールは、24時間体制で行った。

発災後1週間を経過する時点頃からは、被災地域の防犯活動や避難所や避難者への訪問活動を中心に活動した。

以下、活動中の写真を示す。



写真-3.3.20 要救助者の搜索活動⁸⁾(大分県警察)



写真-3.3.21 孤立地域へのヘリによる物資輸送活動⁸⁾(大分県警察)



写真-3.3.22 警備部隊による避難誘導・交通規制活動⁸⁾(長崎県警察)



写真-3.3.23 セキレイ部隊による被災警戒活動⁸⁾(大分県警察)



写真-3.3.24 あやめ部隊による避難所訪問活動⁸⁾(大分県警察)



写真-3.3.25 警備部隊員による被災者への声掛け活動⁸⁾(鹿児島県警察)

(2) 国土交通省の活動

国土交通省の活動は、大変広範囲に及んだ。その活動内容は、九州地方整備局のホームページ⁹⁾において詳細に報告されている。

九州地方整備局の災害対策本部は、7月5日(水)16時50分に非常体制を発令している。その後、TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）の派遣を皮切りに以下の活動を展開した。

- 1) 緊急調査
- 2) 道路啓開（孤立地域への支援ルートの確保）
- 3) 二次災害防止に向けた早期の災害復旧
- 4) 災害対策機械の派遣
- 5) TEC-FORCE による調査結果を自治体へ報告

TEC-FORCE とリエゾン（災害対策現地情報連絡員）の日田市での活動実績は、以下のとおりであった。

- ・ TEC-FORCE：7月6日（木）～8月9日（水） 35日間 派遣延べ人数 810名
- ・ リエゾン：7月5日（水）～8月9日（水） 36日間 派遣延べ人数 59名

以上の様々な活動の内、TEC-FORCE による調査結果を日田市へ報告している状況を以下に示す。

○ H29.7.12（水）豪雨災害の発生から1週間、TEC-FORCEから原田啓介 日田市長に甚大な被害が発生した日田市管内の河川や道路の被災調査の中間とりまとめを報告。



写真-3.3.26 TEC-FORCEの活動状況の一例⁹⁾(災害対策本部会議での説明等)



▲ 調査結果を原田 日田市長に説明

写真-3.3.27 TEC-FORCEの調査結果の市長への説明⁹⁾

ミニ解説

— TEC - FORCE とは? —

TEC - FORCE (緊急災害対策派遣隊)とは、

- ・大規模自然災害への備えとして、迅速に地方公共団体等への支援が行えるよう、平成20年4月にTEC-FORCEを創設
 - ・TEC-FORCEは、大規模な自然災害等に際して、被災自治体が行う被災状況の迅速な把握、被害の拡大や二次災害の防止、被災地の早期復旧等に対する技術的な支援を円滑かつ迅速に実施
 - ・本省災害対策本部長の指揮命令のもと、全国の各地方整備局等の職員が活動
 - ・国土交通省各組織の職員合計9,663名(平成30年4月現在)を予め任命
- ということです(<http://www.ktr.mlit.go.jp/bousai/index00000035.html>より)。

国土交通省 水管理・国土保全局や各地方整備局のホームページには、これまでの活動等、様々な情報がアップされています。

(3) その他組織の活動

初動対応時には、消防機関、自衛隊、警察、国土交通省の他、様々の組織・機関より、多大な支援を受けた。以下には、初動対応の段階での人的支援の内訳を示す¹⁰⁾。なお、復旧・復興の段階での人的支援については、第5章他で記した。

表-3.3.4 初期災害復旧に係る職員派遣 大分県の職員派遣実績

(平成29年7月6日～8月7日)

業務内容	支援場所	職種	延べ応援人数(人)
避難者の健康支援、一斉戸別訪問	避難所等	保健師	49
避難所の運営支援、聞き取り調査、ペット状況調査等	避難所	事務等	97
ボランティアセンター運営支援	ボランティアセンター	事務	36
災害時公衆衛生対策業務(DHEAT)	避難所、被災者の住宅等	医師・保健師・獣医師	15
医療ニーズ・保健衛生状況把握のためのリエゾン	自衛隊本部・日田玖珠広域消防本部	事務	6
家屋に係る被害調査	被災箇所	建築・事務	16
農地・農業用施設に係る被害調査		農業土木	36
治山・林道に係る被害調査		林業	15
援農隊		農業等	82
計			352

表-3.3.5 初期災害復旧に係る職員派遣 大分県内市町村の職員派遣実績

業務内容	派遣市町村	職種	延べ応援人数(人)
避難者の健康支援	大分市、別府市、臼杵市、豊後高田市、杵築市、宇佐市、由布市、国東市、日出町、九重町、玖珠町	保健師	33
家屋に係る被害調査	大分市、別府市、由布市、姫島村、九重町、玖珠町	事務等	24
計			57

表-3.3.5初期災害復旧に係る職員派遣 その他の関係機関からの派遣実績

派遣元	派遣期間	応援人数
県職員(情報連絡員)	平成29年7月5日～7月17日	延べ 34人
国土交通省職員 緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)	平成29年7月6日～8月9日	延べ770人・日
国土交通省職員 災害対策現地情報連絡員(リエゾン)	平成29年7月5日～8月9日	延べ 59人・日